

養殖筏用材の供給に向けた取組について

釜石地方森林組合 参事兼総務課長 高橋幸男

1. はじめに

平成23年3月11日発生した東日本大震災により岩手県の三陸沿岸にある市町村は、かつて経験したことのない壊滅的な被害に見舞われた。当職も、前代表理事組合長を含む5名もの尊い命が奪われ、事務所が全壊し長年積み上げたデータが流失し組織の維持さえ危ぶまれた。また、私が住んでいる山田町の養殖用筏は全て流され、復旧すら考えられない状況となった。

5月に入り、漁業者からの養殖業を復旧させなければ生活していけないという声が寄せられるようになり、住む場所と働く場所を奪われた漁業関係者に対し、早期に復旧資材（養殖筏用材）を供給することで、雇用の創出と復興に向けた機運を高めたいと考える。

また、養殖筏用材がプラスチックや延縄に代わろうとしている中で、木材を使うという木の文化を継続することで、森林整備・雇用の拡大を進めるとともに特殊材への供給体制の確立を目指す。しかしながら、一度にこれほど大量に養殖筏用材を準備した経験はなく不安を抱えた中でのスタートだった。

6月22日、国有林、民有林が協力して養殖筏用材を供給していくことがテレビ等で報道されたことで、林業界がまとまるとともに、一気に養殖筏の復興機運が高まり、一日も早く養殖筏用材を供給することを決意し、検討することとし、労働生産性と運搬コストについて調査することにした。

2. 一日も早く供給する方法と経過

(1) 山田湾の養殖筏用材の規格の確認

養殖組合長からの規格要望を確認

長さ 12m、末口 4～6cm、元口 16cm 以下(30本/ha(5%予想)程度しか生産できない。納期までに納められるか？漁業者に満足を与えられるか？単価は、大丈夫？等不安が付きまとう。

(2) 養殖筏用材を生産できる山林の選定

- ① 規格に合う立木が多いこと。(胸高直径22cmが多く、樹高が高い)
- ② 山林所有者からの了解が得られること。
- ③ 12m材を搬出できる作業路があること。の3点に注目し選定した。

数年前より取り組んでいる集約化団地(尾崎白浜団地)に注目した。尾崎白浜集落は、漁業集落で、今震災により集落の約5割が壊滅的な状況であるが、震災前に森林作業道が開通(3月9日)。危うく集落の孤立化を作業道が防ぎ、避難道路となり救援隊・支援物資を運ぶ命の道路となった。漁業者の心情と森林の重要性を理解している集落である。また、長年搬出路がなく間伐未着手の森林が多く、胸高直径20cm以下の保育間伐計画を立てていたところである。

(3) 森林所有者への作業内容の説明。

「我々も漁業をしている。復旧に向けて大変な状況でいる。山田湾の漁業者の心情は解る。自分の山で復旧の手助けになれば協力する。ただし、長木を引き抜くときは、残存木に極力傷をつけないようにしてほしい。」との言葉を頂き、早速間伐調査をやり直し、全木集材が可能な、定性・列状複合式の間伐方式を採用し、造材はプロセッサとチェンソーを使用、長木運搬のためトラックの規格がトレーラ・ロングボディタイプに限定されるため中間土場の準備をするなど作業工程の変更を行なう。

3. 選定した山の現状と供給

釜石地方森林組合注文数							面積	林齢 間伐 回数	調査 本数	総出 材積	12m出材量		
所有者	12.00m		4.00m		合計						本 /ha	本数 比率	材積 比率
A	66	6.134	340	6.616	406	12.750	0.31	45 初回	279	39.751	200	23%	15%
B	88	8.332	99	2.064	187	10.396	0.56	44 初回	428	71.728	157	20%	11%
C	180	21.460	369	6.446	549	27.906	3.41	45 2回	2216	255.750	52	8%	8%
D	60	6.569	99	2.496	159	9.065	4.14	45 3回	2152	308.723	14	2%	2%
E	10	0.938	41	0.588	51	1.526	0.26	50 初回	240	21.110	38	4%	4%
F	104	9.838	62	1.036	166	10.874	0.33	55 初回	237	33.068	315	43%	29%
G	109	11.430	62	1.181	171	12.611	2.28	45 2回	1185	158.330	47	9%	7%
合計	617	64.701	1072	20.427	1689	85.128	11.29		6737	848.709	54	9%	7%

上記表から

森林所有者数 7 名、11.29ha、間伐調査本数 6,737 本、林齢 44~55 年生の森林から 627 本の養殖筏用材を生産した。生産率は 54 本/ha、本数比率 9%、材積比率 7%となり、極めて生産が難しいことがわかる。

4. 養殖筏用材の考察

(1) 労働生産性

筏用材は 12m と特殊であるため、労働生産性が低いことが分かった。

一般材の労働生産性 5.1 m³/1 人・日

養殖筏用材労働生産性 2.8 m³/1 人・日

(2) 運搬コスト

一般材の運搬量 18.0 m³/1 台

養殖筏用材運搬量 11.0 m³/1 台

上記の結果から労働生産性・運搬コストともに通常労働性の約 6 割でロスが大きいことが分かった。

しかしながら、震災復興という目標があったものの、コストを度外視して官民が一体となり取組んだ事例は少ないと思われる。結果的に、林業の欠点である計画生産・計画納品が可能となり漁業者に対して満足を与えることができたと考えている。

また、大型国産材加工工場が被災し、間伐材を中心に木材流通が停滞したなか、林業従事者の雇用の維持・森林整備活動を推進することができた。今後各地で復興計画が実行されるなか、復興資材として、木材への期待は高まりを見せてくるであろう。また、原子力事故による再生可能エネルギーとしての木材の評価は今後も高まりを見せてくると思われる。今回のように官民が連携して復興への対応することが森林・林業による復興支援としての価値を高めるとともに林業再生への足掛かりとしてのチャンスになるのではと考えるところです。